

2020年1月30日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

タンザニア、ムヒンビリ国立病院の小児集中治療室における  
経鼻経管栄養の改善計画

Proposal to Improve Nasogastric Tube Feeding  
at Pediatric Intensive Care Unit, Muhimbili National Hospital, Tanzania  
-Based on practice as a volunteer nurse and through literature review-

学生番号：17MW301

氏名：中川 理恵

## 要旨

背景：経鼻経管栄養は、ムヒンビリ国立病院で入手可能な医療資材で、日常的に実施可能である有効な栄養療法である。ムヒンビリ国立病院の APCU/PICU では経鼻胃管の先端位置を確認せずに栄養剤の注入を行うなど、不適切な手順や管理で経鼻経管栄養を実施することが常態化しており、誤嚥性肺炎や死亡事例が起きていた。

目的：ボランティアとして派遣された研究者によるタンザニアでの経験と文献検討に基づいた、開発途上国における、安全な小児の経鼻経管栄養の実施のための改善計画を立案することを目的とする。

方法：1) 研究者がタンザニアのムヒンビリ国立病院、Acute Patient Care Unit(以下 APCU)と小児集中治療室(以下 PICU)で青年海外協力隊の看護師として経験したことおよび実践したことの記述を行う。

2) 途上国・先進国で実施している経鼻経管栄養の文献検討を実施し、推奨されている手順や原理を収集する。同時に、改善を成功に導く方略(目標設定や当事者意識の高揚)を探索する。

3) 現地のタンザニア人看護師へのヒアリングを通じ、海外から支援のために来た看護師と協働して経鼻経管栄養の改善計画を立案する。

結果：1) APCU/PICU では経鼻経管栄養の改善を病棟全体で取り組む課題(KAIZEN プロセスで扱うテーマ)として選択する。最初に PICU の看護師の経鼻経管栄養の実施状況の把握を看護師の行動の観察とインタビューを実施する。その結果から現状の看護師のどの行動が問題であるかを分析し、経鼻経管栄養に関する病棟内の問題意識を統一する。その後、病棟で行われている経鼻経管栄養のやり方の原因分析を行い、原因に対応する解決策を立てて、実行する。

2) 解決策を実行した後、1 ヶ月に 1 度、看護師の行う経鼻経管栄養の実施を観察・モニタリングする。計画開始 6 ヶ月後に Implementation Research の実装アウトカム変数に沿って評価を行う計画である。

3) すべてのプロセスを通じて、海外から来た支援者がタンザニア人の看護師とともに看護の質の向上のために協働するには、＜海外支援者と現地看護師＞という関係性から＜同僚＞という対等な関係性に変化させる必要があるとの示唆を得た。

結論：PICU の現状、病棟看護師の問題意識と、研究者の青年海外協力隊の活動を通じた豊かな協働関係により経鼻経管栄養の改善計画を立案するに至った。